

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。梅雨の季節がやってきました。くれぐれもご自愛ください。

かわら版では日常会話の中に含まれている仏教用語をご紹介します。知らず知らずのうちに使っている仏教用語。それだけ日本人の生活に溶け込んでいるということなのです。

今年の大河ドラマは「どうする家康」。家康の家臣として服部半蔵が登場しています。半蔵は忍者だったと伝わっています。忍者は隠密とも言います。

隠密とは戦国時代から近世にかけて、情報活動に従った下級武士のことを指します。江戸幕府には御庭番という將軍直属の隠密もいました。將軍居所の奥庭番人を務めつつ、將軍直々の命令を受けて諸国の動向を探る等の任務についていたそうです。

隠密は時に黒装束で大名屋敷等に忍び込んでスパイ活動や襲撃を行う者もあり、これが典型的な忍者のイメージです。服部半蔵も含め、忍者の一部は武士の扱いを受けていました。

さて、この「隠密」も仏教用語です。

仏教では、仏の教えの真髓や本旨はお経の表面に明瞭に顯れて説かれているものと、表面の

字面だけからはわからない奥深くに隠されているものがあるとされています。

仏教では、前者を「顕彰」、後者を「隠密」と言います。「顕彰」とは「顕説」とも言い、お経に顕かな形で説かれている教えです。「隠密」は「隠彰」とも言い、お経の字面には顯らかに説かれていない教え、つまりお釈迦様が真に伝えたかった教えです。

お釈迦様はインドのガヤ(伽耶)という場所で覺りを開きました。ヒツパラという木の下で瞑想しているうちに覺つたので、その木は菩提樹と名づけられました。覺つた後は、ひとり法悦した。覺つた後は、ひとり法悦(覺りの喜び)に浸っていました。たが、その様子を知られた天の最高神である梵天は「釈尊が覺つた素晴らしい境地を衆生(人々)に広めなければこの世は滅びる」と考えました。そこで梵天はお釈迦様の前に現われ、教えを説くように説得しました。この出来事は梵天勸請と言います。

しかし、お釈迦様はお断りします。真理は言葉では表わせない、つまり言語道断、以心伝心です。説法しても正しくは伝わらないだろうと思つたからです。しかし梵天が「それでは真理を

誰が伝えるのか。勇気を出して法を説いてほしい」と熱心に説得し、とうとうお釈迦様は教えを説きます。最初の説法を「初転法輪」と言いますが、その説法の内容には「顕彰」と「隠密」があるということです。

真理を伝えるためには、それを聞く人の能力や特性に応じて説き方を変えねば伝わりません。真理をいきなり話しても理解されないのです。教えを説く手段として方便(例えや比喻)を使います。つまり、真理は奥深くに隠れていることから、方便を駆使して伝えることを「隠密の義」と言います。

さて、上に登場した「言語道断」も「以心伝心」も「方便」もみんな仏教用語です。方便を駆使しないと伝わらない言語道断、以心伝心の教えが「隠密」です。

ことの真相、真理を探るという意味で、「隠密」は忍者の意に転じ、現代語としては「密かに探る」「人知れず活動する」という含意も持つようになりました。

今日は「隠密」な話をお伝えしました(笑)。ではまた来月。

※



大塚耕平・新刊好評発売中・中日新聞販売店にお問合せください

尾張名古屋歴史街道を行く —社寺城郭・幕末史—

今つながら、解き明かされる「尾張名古屋の通史」
先史時代から知られざる幕末史まで 尾張名古屋を知りつくすための一冊



尾張名古屋は畿内と近く、古代より都と東国、鎌倉、江戸をつなぐ街道の要所であり、街道の発展とともに社寺、城郭、町の歴史が形成されてきました。
本書では、鎌倉街道、名古屋城下町、城下町から東西南北に延びる脇街道を探索し、尾張国の地政・歴史を概観します。
先史時代から幕末まで、尾張名古屋の歴史をより深く知るための一冊です。

大塚耕平著 発行：中日新聞社

定価：1,760円 税込(本体価格1,600円+税10%) ISBN：978-4-8062-0802-0

大塚耕平事務所 かわら版担当：あさい
TEL 052 757 1955

